

横浜市立 別所小学校

学校評価報告書

(令和 7 ~ 9 年度)

重点取組分野	具体的取組	令和7年度	自己評価結果	総括
確かな学力	①児童の実態や願いを元に、主体的・対話的で深い学びを実現し、粘り強く学力を育成するために、重点研究や学年研究会等の研修・研究に取り組み、年度の授業で子どもが自分の学びを判断して選択しながら、トライアンドエラーができる場を意図的に組み込むなどの授業改善に努めます。 ②学習内容に合わせて自ら学ぶ道徳学習の取り組みをお便りや懇話会にて情報発信し、家庭に共有していきます。紙面による学習のIC、ICTを効果的に活用し、個に応じた学習を行うことで基礎基本の定着を図り、自信をもって学ぶとうる意に繋がります。	①重点研究や学年研究会等の研修・研究で、児童の実態や願いを踏まえた授業改善を進めたことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて進捗することができた。特に「粘り強く学ぶ子」の育成に力を入れたが、市庁・学習状況調査の結果を踏まえ、粘り強く学ぶ子について留意事項があることが分かった。 ②学びがリアルやデジタル教科書の活用等、ICTの効果的な活用・最大限に力を入れて進めたことで、新しい授業観も、児童の資力・能力の育成につながり、個に応じた基礎基本の定着に向けた学習の進捗を認めることができた。家庭学習のつながりも深まり、保護者との活用についての理解が深まりつつ、情報科を引継ぎ授業も、保護者と連携した家庭学習が続けられていて、引き続き基礎基本の定着を図っていく。		B
豊かな心	①年2回のYPアセスメントでデータを分析し、学級の実態把握を行う。短時間で取り組めるプログラムも取り入れることで定期的なプログラムの実施につなげていく。また、個別のケース会議を行い、個の見取りと支援を充実させていく。 ②学級目標との関連を図りながら人権教育を進め、人権意識を高めていく。 ③児童から発信する継続的なあいさつ運動を構築し、実施していく。	①YPアセスメントのデータ分析を通して、学級の実態把握を行った。短時間で取り組めるプログラムも取り入れることができた。定期的なプログラムの実施については課題が残った。また、個別のケース会議を通じて、個の見取りを行った。今年はいかに支援を充実させていくこと。 ②学級目標との関連を図りながら人権教育を進め、人権意識を高めることができた。人権週間なども意識して進めて、活動を充実させていく。 ③児童から発信する継続的なあいさつ運動を構築し、実施した。新しい試みがあつた運動に定着できた。あいさつ運動以外の様々な場でのあいさつは課題が残るので、引き続き取り組みを続けて定着を図っていく。		B
健やかな体	①年2回のなわとび記録会を継続し、体力向上のための機会を増やしたり、体育授業の内容改善のための情報交換を行った。子ども達の実態に合った健康面での課題を克服するために学校保健委員会を年2回開催していく。 ②体力の向上や健康の促進のために、家庭や外部機関（スポーツ協会や学校医）と委員会連携と連携を行い、子どもが日常的に取り組めるテーマ（運動週間・しるし面予防週間など）を設定し、活動に取り組んでいく。	①子ども達の運動の特性を味わい、運動する楽しさを味わうことができるように、学習のルールを子どもと話し合ったり、学習の場の工夫をしに行ってきた。運動が楽しいと感じる子どもが増えた。 ②組織委員会や学校保健委員会を各委員会が主体となり取り組んだため、子どもが健康に対して主体的に取り組めるようになっただけで、運動や健康に関する課題を特定し、活動に取り組むことができた。運動を楽しむ機会や健康な生活への意識は育っている。体力テストの結果にないような運動を、カリキュラムとして位置づけたり、その運動を促進するよう保健委員会活動に取り入れたりして、体力テストの結果の上を目指していく。		B
地域連携 学校運営協議会	①近隣校から情報を共有した地域の人的・物的資源を活用した学習活動推進できるように、生活・総合的な学習を中心に、地域との協働を図っていく。 ②学校運営協議会で話し合われたことや学校の様子、学校HP・学校説明会・子育てなどで、紙面やインターネットを使い地域や保護者に向けて情報を発信していく。 ③地域コーディネーターと連携し、ICTを効果的に活用し保護者や地域ボランティアに協力していただき教育活動の充実を図る。	①総合的な学習の時間を中心に地域の方と関わり、協働して学習を進めていくことができた。少しづつ地域や外部機関とのつながりが増えてきているので、今後も継続して協働を広げていく。 ②学校からの連絡を主に子育てで配信していることで保護者から多くの良い評価もいただいているがPTでも定期的に話し合っていることで、最前線情報も発信することができた。学校運営協議会で話し合われたことは、校長から職員へと報告があり、今後に向けては学校運営改善の意を汲み取った。 ③地域コーディネーターと連携し、子育てを活用して保護者ボランティアを募集した結果、充実した教育活動を行うことができた。		B
いじめへの対応	①生活アンケートや面談等を定期的に行うことで、いじめや学校生活の問題点を早期発見し、組織的に対応を図りながら支援体制を充実させる。 ②YPアンケートを行い、分析して児童をみとったり、分析結果に基づきクスの実態に合ったYPプログラムを計画的に取り入れたりと、教員間で見守り体制づくりを行う。 ③子ども会議や道徳の授業で、子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取組を強化する。	①生活アンケートや面談等を行い、いじめや学校生活の問題点を早期発見し、児童支援等を中心として組織的に対応を図りながら、支援体制を充実させた。毎月のいじめ防止対策会議では、養護教諭も出席して、相互に意見を交わし合い、いじめやいじめの未然防止を図ることにできた。 ②アンケートを行い、分析して児童をみとったり、分析結果に基づきクスの実態に合ったYPプログラムを実施した。計画的に行うことについては課題が残った。学年やブロック・専科教員など、教員間で見守り体制づくりを行う。 ③子ども会議や道徳の授業で、子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取組を強化した。子ども会議では、人権週間とタイアップして意識向上について考えることができた。		B
人材育成 組織運営(働き方)	①職員全体で組織を支えるために、知徳体と校内の重点研究、児童指導、GIGAを含めた3部会としてそれぞれ所属し、組織間で連携を図りながら学校運営していく。また、ICTを活用し会議の効率化を図る。 ②月間で行われるメンター研修では、中堅にあるドムリーダが中心となり、今後として経験の浅い教職員の悩みや課題に応じた模擬授業や研修を行い、学校全体で育成していく。	①細分化した分掌で会議を行い、その内容を学年内で共有することができた。結果、仕事の量がひとりで抱えず、組織として円滑に学校運営を行うことができた。会議もICTを活用し、効率化を図っているがまだまだ改善の余地があるので、今後も検討していく。 ②メンター研修に中堅や経験豊富な教員がアドバイザーとして講師となり、経験の浅い教職員の悩みの受け皿になることがあった。また、職員定員では、職員全体で経験の浅い教職員に日頃から意識的に声を掛け、教員研究を一緒に進めたり授業を見たりアドバイスしたりしており、学校全体で育成する体制が見られた。		B
ブロック内 評価後の 気づき	①今年度も6年生が2回に分けて中学校の授業や部活動を見学する機会が設けられた。特に昨年度から始められた土曜日の部活動体験は、希望者による参加であるが、多くの児童が参加して中学生との交流が図られた。保護者の参加も多く、中学校部活動における現状について理解が深まり、中学生への不安も軽減されているのではないか考える。また、本校運動会への中学生ボランティアの依頼に対して多くの生徒が手を挙げて参加があり、交流機会の増加へとつながった。 ②横浜市内各小・中学校の調査の結果を基に、ブロックとして重点を置いて取り組むべき教科等や児童の素性について共有することができ、次年度以降の授業研究会のテーマを考える一助となることができた。また、ICTの活用について、通常の持ち帰りや使用用途が小中と異なる認識があったが、今年度から導入されるAIドールを中心に学習の充実を図っていた。 ③ブロック内では、社会性に不安を抱える児童生徒が多く、特別支援スタンダードを用いた自立への確立や人権教育のブロック会議の定期的な開催が必要であると感じた。また、今年度性教育について外部講師を招き、講演していただいたことが非常に好評で、次年度以降の小学校段階から中学校まで性教育の授業を継続していくことを検討していきたい。			
学校関係者 評価	保護者アンケートの結果にもあるように、授業を進んで受けている姿が見られた。また、授業を楽しんで受けていることが伝わってきた。先生方の授業の工夫の成果だと思う。また、掲示物が発表の場となっていて、先生方の努力が伝わってきた。1日の流れも表示されている学級があり、とても分かりやすかった。効果のあるものは、広めてほしい。別所小学校で長年取り組んでいる読書は、とても良い活動だと思う。読書を行うことで何事にもあきらめず、やり続ける力が身についたと感じた。持続することの良さがあると思う。あいさつのごとで子どもと大人でできているかどうかの認識の違いはあるが、読書と同じように持続することが大事なので、今後も指導を続けていってほしい。昨年度から行っている6年生を対象にした南が丘中学校の土曜日の部活動体験、今年度から行った中学生ボランティアによる運動会のお手伝い、1年生を中心とした特別園・保育園との交流は、幼児小中の連携が取れていると感じた。もし可能な中学校で行っている「命の授業」を、是非、小学校も高学年から行ってほしい。			

[illegible]

重点取組分野		令和 8 年度	総括
具体的取組		自己評価結果	
確かな学力	①児童が自分の理解度に応じて学習活動を自己決定できる増進を想定し、授業の中で「学び方を学べる」よう努めます。また、重点研究会や学年研究会等の研修を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組み、粘り強く学ぶ意欲をもつ子どもを育成します。 ②少人数制や教科担任制、学年での連携を生かし、複数の目で見るとことで、児童が自身の理解度を的確に把握し、自信をもって学習を進められるように組織的に支援します。 ③家庭と学校が連携し、児童が自ら学びを深められるよう、学校で実施している学び方やICTを活用した学習について家庭に積極的な情報を発信していきます。		
豊かな心	①2年2回のPFAセシメントでデータを分析し、アセスメントを生かしたプログラムを実施する。その際、朝学習やなかよし活動、行事や学級活動など、授業以外の場面でもプログラムも取り入れていく。また、個別のケース会議を通して個の発現に支援を実施せ、児童の成長を図っていく。 ②学級目標との関連を図りながら人権教育を進めたり、横浜こども会議や人権週間など、児童から発信する人権に関する活動を通して人権意識を高めていく。 ③児童から発信する継続的なあいさつ運動を実施し、あいさつに対する意識を高めていく。		
健やかな体	①運動の特性を味わい、運動する楽しさを感じられるようにしたり、保健学習で自分の心や体の健康に関して課題解決的に学習を進め、健康意識を高めたりできるようにするために、体育科学習の授業の充実を図る。 ②体力の向上や健康の促進のために、家庭や外部機関（スポーツ協会や学校医）、委員会活動と連携を図り、子どもが日常的に取り組めるテーマ（なわとび記録会・運動週間・むし防予防週間など）を設定し、子どもたちが主体となる活動に取り組んでいく。子ども達の笑顔に合った健康面での課題を克服するために学校保健委員会を年2回開催する。		
地域連携 学校運営協議会	①地域や外部機関との人的・物的資源を活用した学習活動を推進していくことで、生活・総合的な学習を中心に、探求的な学習を推進していく。 ②学校運営協議会で話し合われたことや学校の様子を、学校HP・学校説明会、すぐぐる・学校よりなど、紙面やインターネットを使い、地域や保護者に向けて情報を発信していく。 ③地域コーディネーターと連携し、すぐぐるを効果的に活用して保護者や地域ボランティアに協力していただきながら教育活動の充実を図っていく。		
いじめへの対応	①生活アンケートや面談等を定期的に行い、いじめや学校生活の問題点を早期発見し、組織的に対応を図れるよう支援体制を充実させる。 ②年2回Y-Pアンケートを行い、それを基に児童をみとったり、分析した結果に基づき学級の実態に合わせたY-Pを計画的に取り入れたりし、仲間づくりや学級づくりを積極的に行う。 ③横浜子ども会議や道徳の授業で、子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取り組みを強化し、取り入れていく。		
人材育成 組織運営(働き方)	①職員全体で組織を支えるために、確かな学力・豊かな心・健やかな体に加え、今日の教育情勢を踏まえて新たなICT部会を設置し、学力向上、重点研究、道徳指導、安全教育、体力向上、健康教育、GIGA推進を行うために、職員がそれぞれの部会に所属し組織間で連携を図りながら学校運営していく。また、業務改善の観点から積極的ICTを活用し、会議の効率化を図っていく。 ②1月1日付けられるシフト研修では、中間にあるコアリーダーや教務部の職員が中心となって経験の浅い教職員の悩みや課題に応じた模擬授業や研修を行っていく。メンターの育成には全職員が関わり、学校全体で育成していくように計画する。		
	b7		
	b8		
	b9		
	b10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野		令和 9 年度		総括
		具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1			
豊かな心	c2			
健やかな体	c3			
地域連携 学校運営協議会	c4			
いじめへの対応	c5			
人材育成 組織運営(働き方)	c6			
	c7			
	c8			
	c9			
	c10			
ブロック内 評価後の 気づき				
学校関係者 評価				

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--